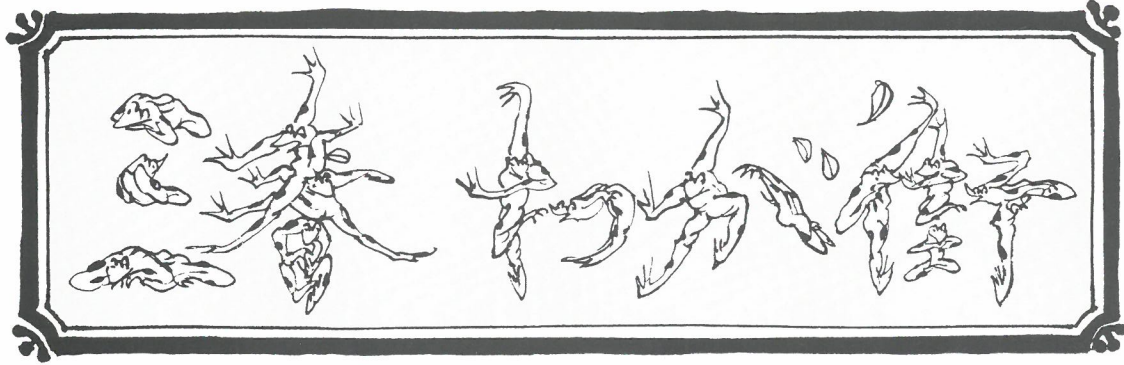


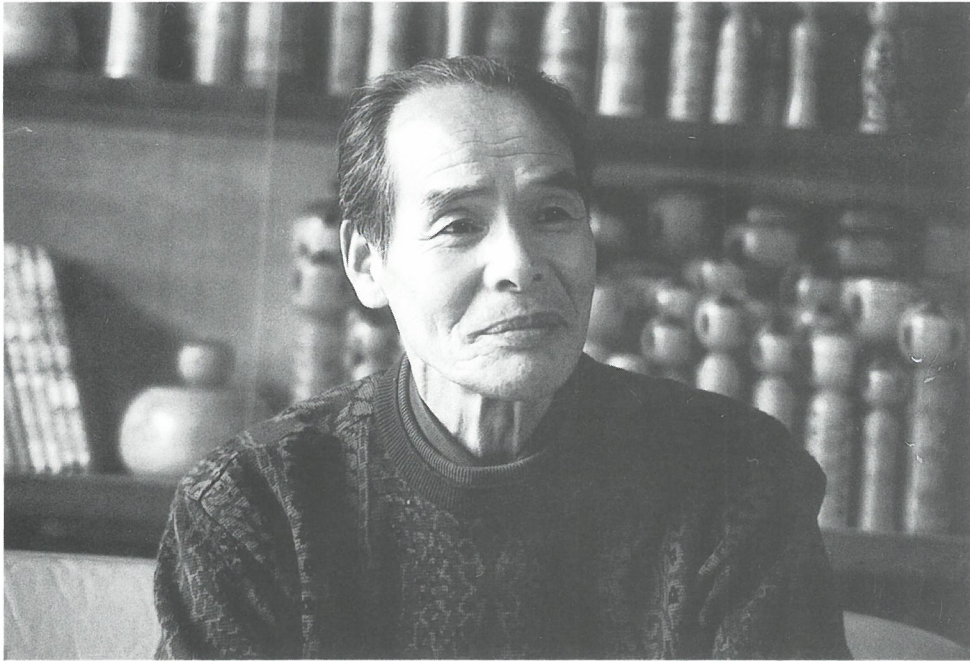


■コミュニティだより VOL.16

特集『桜川について考える』

■発行 三春まちづくり協会

■編集 三春まちづくり協会広報委員会



▲前川治朗さん

顔

“みはるを愛するがゆえに
みはるを描く
みはるを描くがゆえに
みはるを愛す”

前川治朗さん

「前川治朗さんをご存じですか」この質問に対して「Yes」と答える方と、「No」と答える方の割合は、どのようなのでしょうか。

「お名前だけは知っている」あるいは「聞いたことがある」という方まで含めると十中八九は、「Yes」という答えになるのではないのでしょうか。

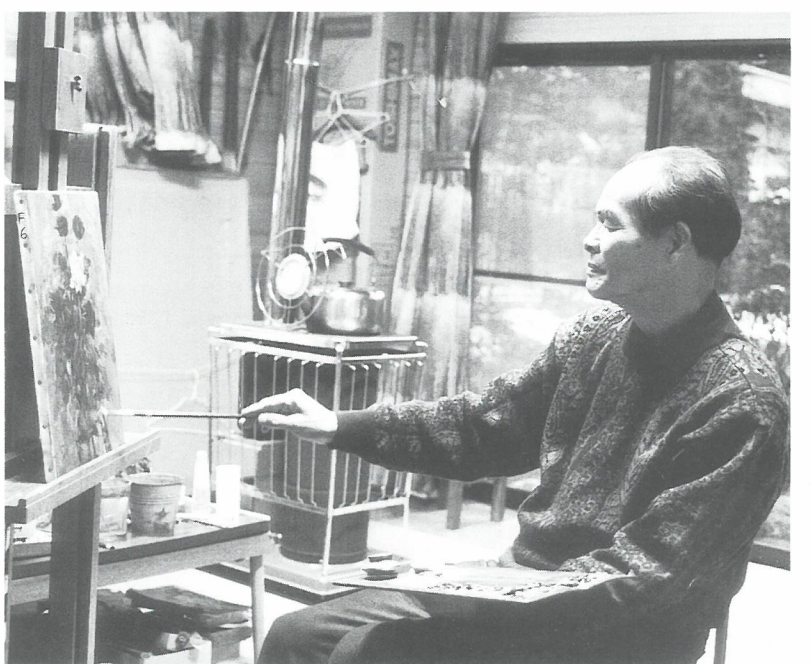
では、画家、前川さんは三春町をどのように見ているのでしょうか。新聞紙上にも取り上げられ、大変有名な前川治朗さんですが、三春まちづくり協会では、みなさんの知らない部分を少しでも紹介することができればという思いから、表紙を飾っていたくことになりました。

現在、荒町から八島台に抜ける路が好きで、特にハナミズキの咲くころは最高」と、まるでその風景が目の前にあるかのごとく、

目を輝かせながら答えてくれました。『ただ、最近蔵の窓にサッシが入ってしまったら、狭い路が似合う三春町なのに車のために広げられ、イメージが違ってきていることが残念です』と、逆に本当に残念そうに語ってくれました。

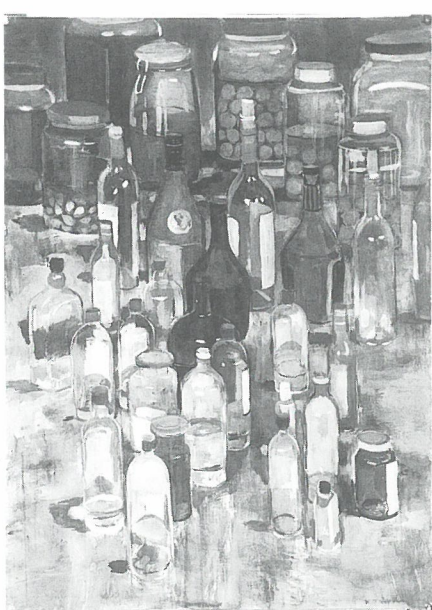
我々の現在の生活は利便性のみを求め、本当に大切なものが何なのか忘れていくのかもしれない。前川さんの言葉の中に三春町のあるべき姿が見えかくれしているように思われます。

また、『若い人が残れる活気あふれる町、三春町を訪れた人に来てよかったと思われるような魅力ある町、そして、お城山がわが町のシンボルとして町民に愛される山になってほしい』といったことが、将来の三春町に望むことだと語ってくれました。



▲絵をとおして人づくり、まちづくりを実践する前川さん。

実は、前川さんは望むことの一つを実践しているのです。昭和五五年、突然お城山に出現しました舞鶴城、一夜かぎりの夢ではありましたが、三春町のシンボル



▲前川さんの作品
平成2年 第78回日本水彩画会賞
受賞作品「ビンなど」

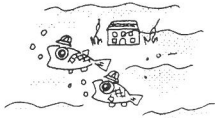
現在、三春町の魅力を高める人づくり、まちづくりを絵をとおして実践している前川さんが、今後描きたいものは、

『光岩寺の仏像と冬の滝桜そして資料館の桜』とのこと。あちこちと、有名な風景を描き歩くことが多いと思われがちな絵の世界ですが

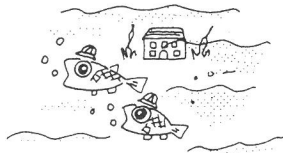
まだ描ききれない。もう、どこにも行かなくてもいいよ。』といった言葉に、前川さんの三春町への愛情が感じられました。本場の三春町の美しさを知る前川さんには、一つでも多く三春町を題材にした作品を描いていただき、我々に、そして多くのみなさんに三春町の良さを教えてほしいと思います。みなさんも前川さんに負けないように、一つでも多く三春町の美しい風景を探してみたいかがでしょうか。

1069

- 平成5年 第61回県美術協会賞 受賞
- 平成4年 第80回日本水彩画会賞 受賞
- 平成4年 第60回特選山川賞 受賞
- 平成2年 第78回日本水彩画会賞 受賞
- 平成元年 第40回県南美術展 飛田記念賞 受賞
- 昭和46年 第18回県水彩展 入賞
- 昭和43年 第15回県水彩展 入賞
- 昭和39年 福島県観光ポスター原画コンクール 入賞
- 昭和28年 皇太子殿下御帰朝記念切手図案 入選 ※切手に採用



桜川について考える



今回の特集は、みなさんの生活に密着し、何かと関心をよびます「桜川」を題材にしてみました。桜川を題材にするにあたり、我々がまず考えたことは、いつ、どのような理由で桜川と呼ばれるようになったかということです。いろいろと調べた結果わかったことは、「わからない」ということでした。どういう理由であつたにせよ、当時は桜川を含め、その周辺は大変美しいところであつただろうと想像できます。では、現在の桜川はどうでしょうか。水は汚れ、大雨の時には氾濫するといったように、その姿から『桜川』という美しい名前は想像できません。そこで、昔の歌謡曲の歌詞ではありませんが、『桜川の現在・過去・未来』について広報委員会なりに取り上げてみることにしました。

現在の桜川

現在の桜川といいますがさて、どこからどこまでを桜川というのでしょうか。答えは：『小鳥山入口から阿武隈川合流点まで』だそうです。みなさんご存じでしたか。桜川に関する話題で一番新しいものというと、去年の九月十日の集中豪雨による水害でしょうか。

平成5年9月10日水害状況

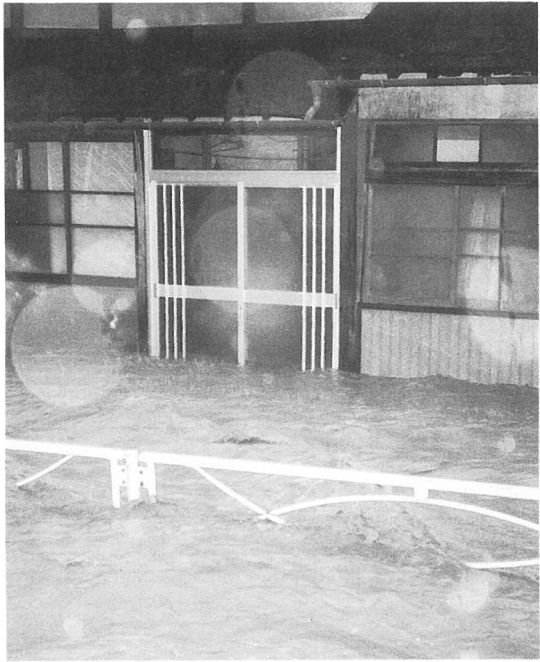
降雨量…15：40～16：00の20分間に31㎜

被害状況

被害状況	世帯数	棟数	備考
床下浸水	93	109	
床上浸水	9	9	
全壊	1	1	尼ヶ谷
計	103	119	

この水害の被害者の皆さんは、それぞれにあの時の

恐怖を語ってくれました。・あまりにも『あつ!!』という間の出来事で、家財道具や店の商品を持ち出す時間もなく、汚水に浸かった家の中を眺めてただ呆然とするしかなかった。・道路が泥流となり、流木がガラスを破り、便所は便だらけ、今でも、ハッキリ襖に水位の跡が残っています。・水が引けて、皆一様に驚いたことは、土間、車庫、縁の下といわず残された膨大な泥土の山でした。



▲9月10日の大洪水のようす

三春中桜川クラブ・三春小科学クラブ

水質判定調査に継続取り組み

桜川を考えるうえで河川氾濫に対してもう一つ水質汚染という問題もあります。三春中桜川クラブと三春小

科学クラブでは、河川の水質判定調査に取り組んできておりますが、ここでは桜川クラブの活動状況を紹介

望まれる早急な対策

町議会も桜川河川改修対策特別委を設置

その後の対応がはかばかしくなく、土砂で浅くなった桜川の改修工事は一体いつから始まるのかと不満が根強くあります。『天災か人災か』の論争もさることながら、具体的な工事計画を示し、桜川沿いの町民のやりばのない気持ちや少しも安心させる方向に持っていければと感じます。

今年も七月上旬に『河川クリーンアップ作戦』が予定されています。そこで、今度は草刈りよりも泥上げ作業を中心に川底を少しでも深くする方向で実施したらどうかと提案

することにします。

三春中桜川クラブでは、各調査ポイント（清水・役場裏・八幡町・一本松・舞木など）ごとに「指標生物による河川水質判定調査」を行っています。どんな生物が生息しているかによって、水質がどの程度きれいかわかるか、きたないかわかるかというものです。指標生物からみた場合、桜川はきたない水（中腐水性）に生息するヒル類、ムズシ・サカマキガイや、大変きたない水（強腐水性）にいるイトミミズ類、セスジュズリカが観察されています。昨年七月、ややきれいな水（貧腐水性）にいるヘビトンボ類やヒラタカゲロウ類が上流の清水と舞木で見つかっています。残念ながらサワガニは発見されませんでした。

一般的に桜川は、さまざまなゴミが多く、家庭からの生活雑排水などでにぎり季節によっては、ぬるぬるや川底からのガスの発生、ドブ臭い悪臭がみられます。特に八幡町ポイントでの汚れが多く、ほかが透明度が高い時でもにごっており流れも遅い。パッキテストという水質検査でも10℃20℃ODmg/lと汚れが目立っています。さて、子供達がこのように桜川に関心を持ち調査等実施しているのに対して、私達大人はあまりにも無関心なのではないでしょうか。町でも下水道事業にとりかかるそうですが、かなりの年数がかかるそうです。少しでも今の桜川をきれいにするためには、私達一人ひとりのちよとした心が

する人もおります。再度このような豪雨が来ないとも限りません。その時のためにも二度と同様の被害を出さないような早急な対策が望まれます。

町も桜川が一級河川であり県の管理で町で改修を実施することができないというところで、大変苦しんでいるようです。現在、県事業として桜川の改修について具体的調査を行っているところですが、また、町議会も三月定例会で桜川の改修工事促進のため『桜川河川改修対策特別委員会』を設置しています。

けが大切なのではないのでしょうか。

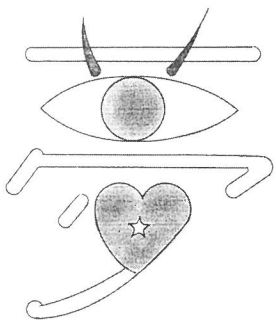
そこでここでは、家庭でできる生活排水対策を紹介いたします。

- ①食べ残しのないよう調理量を考えること。
- ②調理くずなどは直接流さないようにすること。
- ③食器などについた調味料や油は拭き取ってから洗うこと。
- ④使い古しの食用油は直接流さないこと。
- ⑤洗剤や石けんは正しく計って使うこと。

以上のこと以外にも「家庭でできる生活排水対策」はいろいろあると思います。『塵も積もれば山となる』の諺のように、ちよとした一人ひとりの心がけしだい桜川の水質も変わってくるのではないのでしょうか。



三春小科学クラブの活動

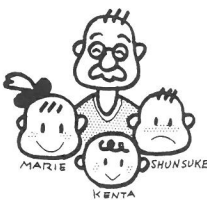


川を与える

過去の桜川

現在の桜川をいろいろと調べてきましたが、ここで一つの疑問にぶつかりました。それは、桜川の河川氾濫や水質汚染はいつごろからのことなのか、ということです。

私達広報委員がタイムマシンで過去へ行くわけにはいきませんので、町内のお年寄りの方に五十年以上前のお話を、お聞きしました。



「五十年前は、ゴミや空き缶などは捨ててなかったし水もきれいで、子供達の良い遊び場だったね。」

「どんな遊びをしていたかってー魚を釣ったり、すくったり、あとは水浴びもよくしたね。」

「どんな魚がいたかってーフナ、コイ、ドジョウ、それから大雨の時に庭の池から逃げてきたんだろーけど金魚やヒゴイも時々いたね。その他、ゲンゴロウ、ミズスマシ、アメンボウ、ヤゴ、カエルなどもいたね。」

夏の日の朝早く、桜川の岸の草にとまっている羽化

したばかりのオニヤンマを捕まえるのが楽しかったな。」

「冬はどうしてたかってー当時は役場の裏の堰で（水深一メートル位）水が凍って天然のスケートリンクになっていたよ。」

「スケート靴があったかってーゲタスケートや竹スケートだよ。父や兄、時には自分で作った、本当の手作りスケート靴だよ。」

「氷の面をいつも平らにしておくために、当番を決めて氷の上の雪をはいたり、夕方に水を撒いたりしたもんだ。それは、なかなか大変だったよ。」

「それから、川の氷が解け始めると『流水遊び』をするんだ。」

「どんな遊びかってーこれ



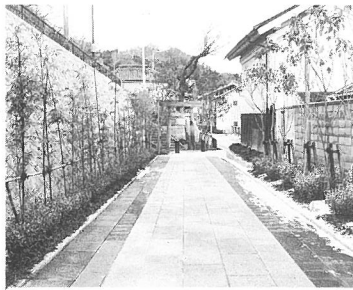
今回の「歩く・見る・聞く」は特別企画『三春再発見・ここはどこ？クイズ』です。ヒントを見て答えてください。
正解者の中から抽選で7名の方に三千円の図書券をプレゼントします。



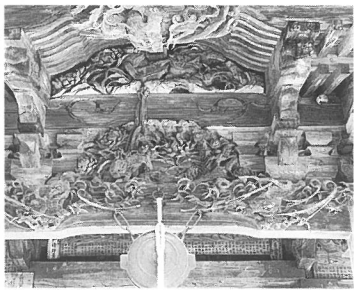
写真B



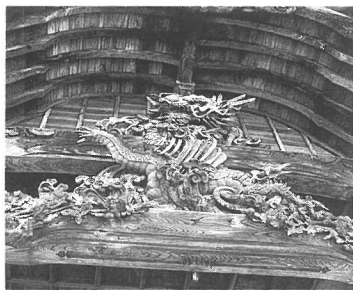
写真A



写真D



写真C



写真F



写真E

子供達が夢を持てる川に

未来の桜川

は危ないからダメ。どうしても聞きたいか。教えるけど真似しないだろうな。これはね、川の氷を二メートル四方に割って、船にして乗るんだ。長い棒で操って遊ぶんだ。氷の上だからヒヤヒヤだよ。」

もお聞きすることができました。以前の桜川は、三春町の人々の、特に子供たちの生活に密着し、楽しい空間であつたようです。

汚した私たちの手で、元のようになり、きれいにしなければならぬ。」

「桜川に明るい未来はない。暗い未来を防ぐために今、私たちが頑張らなければならない。」

現在、過去ときましたので、次はいよいよ未来へと話は進むわけですが、過去においては、みなさんの協力により、避けることができたわけですが、未来について語っていただくことはできず、困ってしまいました。



▲平成6年4月27日午前8時30分から午後7時まで、地元消防団及び建設業社の協力により町が実施した桜川土砂上げの様子

お聞かせいただいた内容をまとめますと、以上のようになつたわけですが、どうも夢が感じられないように思われます。
現在の桜川には、子供達に夢を抱かせる『力』さえなくなつてきているということでしょうか。
人間を生き返らせることはできませんが、川を甦らせることはできると思ひます。せめて、『子供たちが夢をもてる川』になつてほしいものです。

以上にて特集は終わるわけですが、三春小学校『科学クラブ』及び三春中学校『桜川クラブ』のみなさん、その他、取材にご協力いただいた数多くの方々に心から感謝申し上げます。

《ヒント》

- ①龍隠院 ②磐州通り
- ③三春タクシー・協通り
- ④馬頭観音 ⑤天沢寺
- ⑥人形館前・裏通り
- ⑦紫雲寺通り ⑧縦丈六
- ⑨旧山田屋旅館
- ⑩不動山下・裏通り

《応募要領》

はがきに答えと氏名、住所、年齢、電話番号、感想をご記入のうえ、6月30日までに 字大町7『三春まちづくり協会』までお送りください。尚、『事務局だより』で当選者の発表をします。

三春の印象

ライスレイクの家
マネージャー

パトリシア・デュランド

私が日本に住むようになってもう一年がたちました。今、素晴らしい思い出を振り返ってみたい。

昨年二月、ここに着いたとき、私の心は、期待と興奮と少しの不安がいりまじっていました。しかし、その不安も今思うと全く必要のないことでした。三春の人たちは私をあたたく迎えてくれたのですから。

最初の一ヶ月間位は、マイロとイレイン、それに大内健二さんたちと会議に会議を重ね、建設中は何度も現場に足を運びました。橋本孝一さんや吉田さん、その他たくさんの方とお会いしました。

このころ、私の日本語はあまり上手ではありませんでしたし、ことばや文化の差が大きいことはだかつて、ストレスの連続のような日々を過ごしました。

でも、仕事はとてもエキサイティングで楽しいものでした。もちろんホームシックにかかる暇などありませんでした。

日ごとに暖かくなり、ライスレイクの家の完成の期限を目前にして、私たちは最後の追い込みにかかっていました。まだ山ほど仕事が残っていたので、期日ま

でに完成できるかどうか心配でした。

四月二五日、皆が待ちに待った日がやってきました。少し肌寒い感じでしたが、よく晴れていました。満開の滝桜のように私の心も喜びに満ちていました。

この日は私の人生の中で最も幸せな日のひとつとなりました。一〇〇人を越えるお客様が来てくださり、ライスレイク市からも私の友だち一〇人がやってきました。テレビの取材も受けました。伊藤町長の夢が実現したのです。私の心は喜びではちきれそうでした。

時はとぶように過ぎ、五人のアシスタントボランティアと約十五人のボランティアスタッフの皆さんが働いてくださるようになりました。私たちははるばるとても良い友だちになりました。

チーフボランティアの石川さんは毎日来てくれました。私たちは日本語と英語で語り合いました。小山先生も毎日来てくださいました。この二人と他にもたくさんの人々が私をささえてくれました。



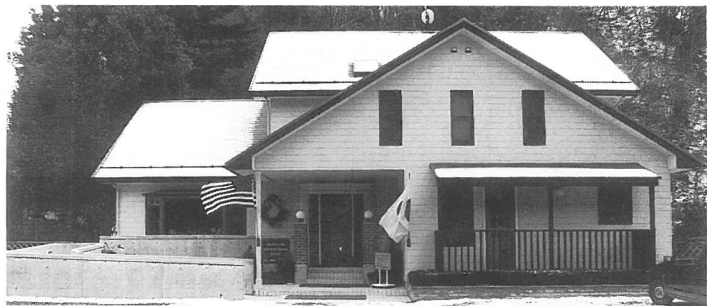
▲「パトリシアさん初めての餅つきの御感想は」

私にとって最も素晴らしい月は十二月でした。私は三春の皆さんにアメリカのスタイルのクリスマスをお見せしたいと思い、いろいろな飾り付けをしました。

パーティーでイエスキリストの誕生の物語をお話してきたのはとても嬉しいことでした。百二十人もの人々（たいていはお子さんでしたが）が集まり、サンタクロースまでやって来ましたが、クリスマスの日、私が一番幸せを感じたのは、ボランティアの皆さんと、敬老園を訪れた時のことです。

私はお年寄りの皆さんの暖かい歓迎をきくと忘れられないでしょう。思わず涙がこぼれました。今年もクリスマスの日にボランティアの皆さんが敬老園のお年寄りにクッキーを届けてくださるよう願っています。

年末のある日、私は福聚寺を訪れ、もちつきを見学しました。見るだけでなく私もモチをついてみました。皆で協力してつきあげたモチを食べながら、私も本当にこの町の一員になれたような気がしました。



▲オープン周年を迎えたライスレイクの家

こうしていろいろな方たちと知り合いになって、今ではここはとても居心地の良い場所となりました。街を歩いてると気軽に声をかけてくれる皆さん。私はまるで故郷のライスレイクにいるような気持ちです。

この七月には帰らなければなりません。でも、その前にもっともっと日本の文化について学びたいと思っています。日本の生活を教えてくれた三春の皆さんに心から感謝しています。私はこの素晴らしい一年を決して忘れないでしょう。またいつかきつとここに帰ってこようと思います。

三春の女一人

初夏の風に誘われて出かけたくなった時、ぜひ行ってみたい所があります。それは、松下長綱公の母君様が静かに眠りについている正覚山光岩寺です。

ここは母君様に会いたい時、話したい時いつでも、という想いが伝わるほど見上げるとお城山がせまってきます。

光岩寺は、延享二（一七四五）年の火事で本堂が焼けてしまいましたが、現在国の重要美術品である本尊仏は、檀徒の力により守られました。

また、母君様の墓碑には「星覚院殿智光理貞大姉」と刻まれているそうですが今では読みとることができなくなっており、時代の流れを感じます。

れを感じずにはいられませんが、本尊仏（阿弥陀様）を前に静寂にひたっている、まるで時代が逆もどりにしているのではないかと感じさせられます。

この本尊仏をご拝えつでみるのはお彼岸とお祭り（五月八日）とお盆だけだそうです。

みなさんも初夏のひととき母君様のようなやさしいまなざしの本尊仏にみまもられながら、星覚院殿が生きた時代を感じてみてはいかがでしょう。

現代の雑踏を忘れさせる「小さな城下町」といわれた三春の歴史が今も生きつづけています。

詳しいことを知りたい方は町歴史民俗資料館で勉強してみてもいいかもしれません。



▲光岩寺の本尊仏（阿弥陀様）



私たちとともに、広報を作ってまいりました。佐藤和之さんが、今年一月にお亡くなりになりました。広報委員一同、ご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

「三春大好き、みはるっこ大好き」

今までバレーボールを通じて皆さんの友達ができました。三春について、もっと知りたい、そんな動機で入会しました。

委員会では皆さん真剣にまちづくりや三春について意見交換しており、私はただ耳を傾けるだけ。これからは三春について勉強しながら次代を背負う子供達にとつて夢のあるふる里であってほしいと思います。

（大槻）
今回から仲間入りすることになりました。女性の立場から記事が載せられるよう努力していきたいと思えます。

桜川特集ということで全員で何度も話し合いをもちましたが、年齢層の違いからいろいろな意見があり、大変興味深く感じました。これを機に桜川がきれいになり、春には、「名物桜川だんご」をほおばり桜並木に囲まれた桜川の下を流れる花びらに歓喜をあげ歩けるようになればと願わずにはいられません。

（降矢）

コミュニティだより
「三春わが街」第十六号
発行日 平成六年六月一日
発行 三春まちづくり協会
編集 三春まちづくり協会
広報委員会